

「それじゃあモモ。悪いけど今日は、お兄ちゃんと一緒に留守番よろしくね」

「うん、分かったよ。お母さん」

今日はお兄ちゃんと一緒にお留守番の日。



お母さん達が、夜お仕事に行ってる時は、私はいつもお兄ちゃんとお留守番しています。

「う」めんね。いつもお留守番ばかりで…」

「ううん、全然平気だよ?」

私はお留守番が大好き。だって、大好きなお兄ちゃんと、2人きりで居られるんだもん。

でも、私には悩みがあります。

今お兄ちゃんと一緒に夕飯を食べています。

お兄ちゃんは相変わらずテレビばかり見えています。
モモと一緒に食事してるのに…



「ねえ、お兄ちゃん」

「ん？なんだ？」

「今日、一緒にお風呂入る？」

「……ん？！」「ほっ！」「ほっ！」「いきなり何を……」

「だって…最近一緒に入ってくれないから…」

「そ、それは……」



「去年までは一緒に入ってくれてたのに……」

「…そうだけど」

「…どうして一緒に入ってくれないの？」

「どうしてって言われても…」

それ以上言うと、お兄ちゃんは私から目をそらしします。

「…とにかく、風呂は一人で入れよな。俺は後で入るから」

「う…うん…」



そう言っで「飯を早食いして、席を離れてしまいました。」

「お兄ちゃん…」

せつかくの二人きりのお留守番なのに…。
この頃なんだか避けられてるみたいで、すごく寂しいです。

結局、1人でお風呂に入ることになりました。

「はぁ……寂しいな……」

体を洗いながら、ため息をついています。
お兄ちゃんとかゴシゴシ洗いつつ、気持ちよかったのに……

お風呂に限っての事だけじゃありません。
私が抱きつこうとするとすぐ逃げようとするし、
いつも私から目をそらすようになりました。



「やっぱり、このお胸が原因なのかな……」

去年はちよつと膨らんでただけだったのに。
1年でこんなにお胸が大きくなってしまいました。

クラスの男子も私のことをおっぱい星人って言ってるからかうし、
先生達からも、このお胸の事で何か問題にされてるみたいです。



重くて、走るのも大変だし…。
いい事なんて一つもありません。
なんで私だけこんなについでるんだらう？

「……………こんなお胸、なくなっちゃえばいいのに」

ペツタンゴになっちゃえば、またお兄ちゃんも振り向いてくれて、
一緒にお風呂も入ってくれられるのかな…。



「…はあ。悩んでばっかりじゃ、ダメだよね…」

色々お胸を小さくする方法を調べてみたけど結局ダメでした。こうなつたららどうしようもありません。

だから、これからどうやってお兄ちゃんに昔のよつに接してもらえるのか考えなくちゃ。

